

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会

ここまで進んだ!! 介護ロボット

生活支援ロボット普及推進協議会事務局 得永課長に伺いました

新型コロナウイルスの中「非接触」ニーズの高まりもあり様々な分野で「ロボット」の普及が加速し始めました。例えば店舗での接客、宅配等々、そして介護の分野でも。今回は公益社団法人かながわ福祉サービス振興会の介護生活支援ロボット普及推進協議会事務局の得永課長にお話を伺いました。

Q:介護にかかわる人たちでも「介護ロボット」の存在や言葉を知っていても「実情や具体的なことはよく知らない」というのが現状ではないでしょうか？

得永:ロボットという言葉には人造人間的なもの、「鉄腕アトム」や「ロボコップ」等に集約されますからね。そもそもの介護ロボットの定義からお話をしましょう。「情報を感知(センサー機能)」「判断し(知能・制御)」「そして「動作する(駆動)」ということ、そして「利用者の自立支援、介護者の負担軽減に役立つ介護機器」が加わります。私たちの事務局では、介護ロボット導入の際の補助金を出すため①介護する場面に用いられる(目的要件)②福祉用具としてセンサーを使用し従来の機器にはない優位性を発揮(技術的要件)③価格が明確である(市場的要件)が3要件になります。

Q:なるほど！定義から考えるとその範囲はかなり広いものになりますね。

得永:そのとおりです、例えば介助者が装着して使用する「マッスルスーツ」的なものや、要介護者がベッドと車椅子間の移乗支援を行うもの、日常生活行動(食事、入浴、排泄など)を支援するもの、上肢・下肢に装着し、運動機能を補助する役割を果たすもの等、皆介護ロボットに該当します。

Q:実際の介護の現場でこれらのロボットの普及はいかがなものでしょうか？

得永:現場における人手不足の影響もあって、ロボットへの関心やニーズが高まっていますが、その普及が急速に進んでいるわけではありません。介護ロボットが出来るのは単一作業であること、そして機器の価格が高価であることが主な理由です。更に介護現場でのリテラシーの問題、そして意外に多いのが「装着や設定に時間がかかる～自分でやった方が早い。」と言った理由です。しかしテクノロジーの進化は著しいものがあること、厚生労働省は「パワーアシストスーツ」などの介護支援ロボットを公的保険制度の適用対象にする検討に入っており、これらの進捗により普及が加速されることも考えられます。その中、現状最も普及をしているのは「見守りロボット」と言われる種類のものです。

Q:定義の中の「センサー」機能を利用したのですね？

得永:見守り機器は介護現場では「マットセンサー」「離床センサー」等がありますが、従来の見守り機器が単に利用者の状



公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 介護生活支援ロボット普及推進協議会事務局の得永課長。介護・生活支援ロボットの導入支援や普及啓発のセミナー、メーカーへのアドバイス、ロボット導入時の補助金の審査等、介護ロボット普及に広く関わっている。



移乗介助、入浴介助等の動作で、介護者の腰部にかかる負担を低減することを目的とした「マッスルスーツ」(左)、「HAL」(右)。人工筋肉のはたらきによって、動作に応じて補助力が生まれる



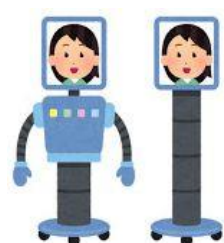
←被介護者に無理をさせることなくロボット⇄車椅子の移乗に対応する「SASUKE」。ADLの低下や体重過多で2人介助が必要な方にも対応出来る移乗介助用ロボット。



ベッドに設置したセンサーマット(左下)で、睡眠状態や呼吸、心拍数などをリアルタイムで検出する「眠りキャン」。データはスマホやPCで一覧表示、状態変化を端末に通知。寝たきりの方の多くが夜間に体調が急変するので夜勤スタッフの負担軽減やプランの改善に



次世代を見据えた「AI対応ロボット」。介護現場では洗濯物の集配、配膳や食器の運搬、下膳、片付け、排泄や廃棄物の処理などの支援が考えられる。AIを搭載し人や物の検知、認識などを行う。利用者の異常事態を認識して通知する機能もある。↓



↑「アバターロボット」newme」。遠隔操作で自分の分身「アバター」が自由に出かけ、出かけた先に実際に居るような体験が出来る。開発途上ですがAIや人工知能を搭載し様々な活用方法が考えられる。



態を検知・通知するものだったのに対し、見守りロボットは単にアラートの発報で終わらず、利用者の行動や状態を「予知」することにより大幅に危険察知を向上させることが出来るほか、アラームの発生時の状況を分析します。スマートフォンやPCなどと連動し、更にかみやマイクと接続することで、通知される情報量が格段にアップしました。これらは主に大規模な介護施設等で利用され夜勤時のスタッフのサポートや負担軽減に繋がり、人手不足・不穏な行動への対応に大きな力を発揮しています。

Q:確かに「介護者の負担軽減に役立つ介護機器」ですね！身体介護に繋がるフィジカルの分野よりも、人工知能、AIテクノロジー活用分野に広がりが見いだせるのかもしれないね？

得永:ロボットや人形等の形状で、高齢者に声かけを行ったりレクリエーションのサポートをしたりするコミュニケーションロボットの普及が進んでいますが、この分野で更に人工知能、AIテクノロジーの活用が進んでいます。例えば「アバターロボット」です。

Q:映画・ゲームやネットの中に登場する「分身」のキャラクター、あの「アバター」ですか？

得永:そうですね、とは言っても映画のアバターとは違い、写真のようにタブレット端末のよう物がキャラクターの上に乗っていて、タブレットのキャラクターが利用者と会話をする、話し相手になる、と言う事をイメージしてください、また、パソコンなどの端末を通じて遠隔地にある「アバターロボット」を分身として動かし、互いの顔を見ながらコミュニケーションを取ることも出来ます。更に機器についてセンサーが利用者を観察、バイタルを含め異常を予知・察知した場合には介助者にアラートを発する仕組みが考えられます。

Q:独居で生活する高齢者や施設での高齢者を相手に活躍をしようですね。

得永:これら人工知能、AIテクノロジー活用により所謂「人型ロボット」の開発も進んでいます。代表的なものに「AI対応ロボット」があります。AIを搭載し、何と！エレベーターに乗って707を移動し、作業に合わせて最適なロボットハンドに自分自身で交換、人間に替わって様々な作業をこなします。

Q:私たちが思う以上に開発は進んでいます、普及への課題はどこにあるのでしょうか？

得永:今後の介護人材不足を考えると、将来的には他産業と同様ロボットの導入は不可欠になります。しかし現状は①作り手の考えと使い手のニーズにギャップがある②介護ロボットの多くが高価③介護スタッフと違い、ロボットの多くが単機能④導入効果に関する蓄積や情報が乏しい⑤ロボットの使いこなしに長けた人材が少ない等の課題があります。また、「変化を嫌う傾向」、介護現場の「介護感」に関わる課題も重要です。テクノロジーと併せて介護する人・される人の意識改革も必要です。

川崎市川崎区のグループホーム「川崎大師バナナ園」より

ミニ運動会～外出自粛自主トレ開始!!

新型コロナウイルスの収束はその気配も見えず、高齢者施設では外出を躊躇う日々が延々と続いています。川崎市川崎区のグループホーム「川崎大師バナナ園」でも室内で日常生活を送る日々が長く続き、テレビを見ながら椅子に座られている時間が長くなり運動不足な日々。「このままの日々が続くと筋力などが衰え介護状態の悪化も心配されます」ケアマネジャーのアドバイスもあり、早速施設内で「ミニ運動会」と題したトレーニングを行うことにしました。まずはスタッフが新聞を丸めテープを巻いた特製の棒と色を付けた水を入れたペットボトルキャップを用意。お互いぶつからないように間隔を空けてソーシャルディスタンスを確保しました。最初は、特製新聞棒を使っての運動。スタッフが見本を見せてから入居者様達も後に続きます。両手で棒を持ち上に高く上げてから下に下ろすを繰り返す上下運動。「仔・ニ・サ・ッ…」と大きな声を出しながら行います。ペットボトルキャップは上下に動かす運動の他に肘の曲げ伸ばし、腕を前に伸ばす運動、そして肩甲骨を寄せる運動も。「なんか肩のあたりがラクになった」「腕が軽くなったよ」という声や「久しぶりにこんなに動いたわ」「沢山動いて疲れちゃったわ。」と言いつつ一人ではなかなか出来ない運動も一緒にすると出来るものです。100歳と101歳の方も「皆に負けないわ!」と一生懸命腕を上下に動かす姿も見られました。このペットボトルキャップをお渡しした際に、入居者様のお一人が「キレイな色ね!! 美味しそうな飲み物だね。」という声が上がリ、思わず笑いが溢れました。二種類の手作りトレーニンググッズを使った「ミニ運動会」を無事に終わると「楽しかったわ。」という声を頂きました。高齢になると、自然に生活をしていても筋力の低下は避けられません。運動不足が続く筋力の低下が続けば、いずれは寝たきりです。そうならないように「外出自粛」の今だからこそ、施設の中でも出来る自主トレーニング、これからも工夫をして続けていきたいと思えます。



コロナ禍で外出の自粛が続く中、特に高齢者の健康に深刻な影響が出ていることが大規模な調査で明らかになっている。運動不足による体の機能の衰えだけでなく、精神面にも影響が出ているという、専門家は対策が必要だと指摘しています。



バナナ園グループで働きステップ・アップをしませんか？ 介護スタッフ募集中

★介護は7ヶ月～未経験だからこそその7ヶ月が必要ですよ!

■募集要項

★職種:ケア・スタッフ<①正社員/②非常勤職員>★無資格・未経験からスタート/年齢不問

★給与:① 月給:224,781円～<18歳資格なし夜勤6日含む>

② 時給 1020<無資格>～1170円<介護福祉士>

※夜勤1回 18,000～20,000円<介護福祉士>①②処遇改善加算交付金含

★時間:9:00～17:00 17:00～翌9:00

★待遇:社保・有休・交通費規定内支給:月額50,000円迄

★勤務場所:当社各施設 10箇所の中から通勤し易い場所を選べます。

●問合せ:(株)アイ・ディ・エス 採用担当まで

☎044-455-6117

2022年3月新卒社員募集中

会社説明会随時開催中

エントリーはこちらから→



マイナビ2022



月刊 MONTHLY BANANA NEWS (毎月1日発行)

通算第198号 編集:株式会社アイ・ディ・エス

川崎市中原区新丸子町734-2 ☎044-455-6119

<HP> <http://www.bananaen.com/>

川崎市中原区のグループホーム「のんびりーす等々力」より

みんなで作る「インドア花見」

川崎市中原区のグループホーム「のんびりーす等々力」では、毎年桜の咲く季節、ご入居者を近くの公園にお連れし、お弁当を広げお花見をすることが定番ですが、新型コロナウイルス「お花見自粛」の中ご入居者を外にお連れすることは出来ません。何とか春の気分を満喫していただきたいと、新しい「お花見」のアイデアを考案しました!!! ご入居者の皆さまに、好きな色の折紙で「桜の花」一輪一輪を折って頂き、それを模造紙に貼っていき大きな一本の桜の木を作り「インドアお花見」を開催しようというものです。折紙の得意なA様は、率先して皆さまに桜の折り方を教えてくださいました、Bさんは「その桜の色も素敵ね」と様々な折紙を用意してくださいました。皆さま色とりどりの「桜の花」を折り上げ、大きな桜の木を作ることが出来ました。そして3月27日、皆さまお待ちかねのイベント、手作りの桜の木の下で「インドア花見」の本番です。この日は皆さま一人一人にお弁当を用意、いつもより賑やかな昼食会の始まりです。まずは、ノンアルコールとカテルで乾杯です!!「かんぱーい」と各テーブルから、いつもよりも楽しそうな声が聞こえてきました。ノンアルコールを片手に「いやー酔っぱらった!美味しいね!」「桜の花はやっぱりきれいだ!」まるで公園で車座になってお花見をしている如く笑顔で踊りだす方もおり笑い声が尽きませんでした。室内とはいえ季節を肌で感じていただき手作りの満開の桜を見ながら、笑顔の会話も弾み「インドア花見」を実施することができました。昼食を食べ終わってからも、思い出話に花を咲かせ「昔、見たお花見を思い出すわ」とAさん、「毎年、上野公園でお花見を楽しんだなあ」など、お花見の話題で終始、この日は久しぶりに皆様の笑顔が施設の中にあふれてました。コロナ禍でご家族との面会も自粛、必然と外出する機会も減り笑顔も少なくなっていたように感じていたのでこんなにも喜んで下さっている姿を見ることができ大満足なお花見会になりました。とは言うても来年こそは本物の桜の下でお弁当を食べたいものですね。



コロナ禍の中、レクリエーションには様々な工夫、新しいアイデアが必要になってきました。この「インドア花見」は昨年に続き2回目の開催になりました。



バナナ園グループ

[グループホーム]

- 川崎大師バナナ園 ☎044-280-2386 ●第2バナナ園 ☎044-587-1773
- バナナ園武蔵小杉 ☎044-863-7101 ●バナナ園ほりうち家 ☎044-722-5361
- のんびりーす等々力 ☎044-750-9203 ●のんびりーす ☎044-422-2295
- バナナ園生田ヒルズ ☎044-911-1599 ●バナナ園生田の杜 ☎044-789-5691/5692
- バナナ園生田の泉 ☎044-789-5693 ●バナナ園横浜山手 ☎045-264-9634



グループホーム空室情報

空室情報、入居に関するお問い合わせは上記各施設もしくは総合案内に ↓

044-455-6119



社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

地域生活支援 SOSかわさき事業

食糧支援かわさき

食糧寄付のご協力をお願いします

